

地域課題に取り組むPBL体系の拡充  
—ALを4年間の継続した学びとする取り組み—

## 1. ALを4年間の継続した学びとする取り組み

文部科学省2014年度「大学教育再生加速プログラム(AP)」  
テーマI「アクティブ・ラーニング」選定「主体的な学びの場を提供する教育の質の転換」の実現のための、  
「AL教育全般」を底上げする組織的・全学的な授業改革の取り組み

その実現のための柱となる取り組みの一つ

地域課題をテーマとする課題解決型学習 (PBL) の  
推進によるAL体系化

## 2. 専門ゼミ I への「山口型PBL」の導入

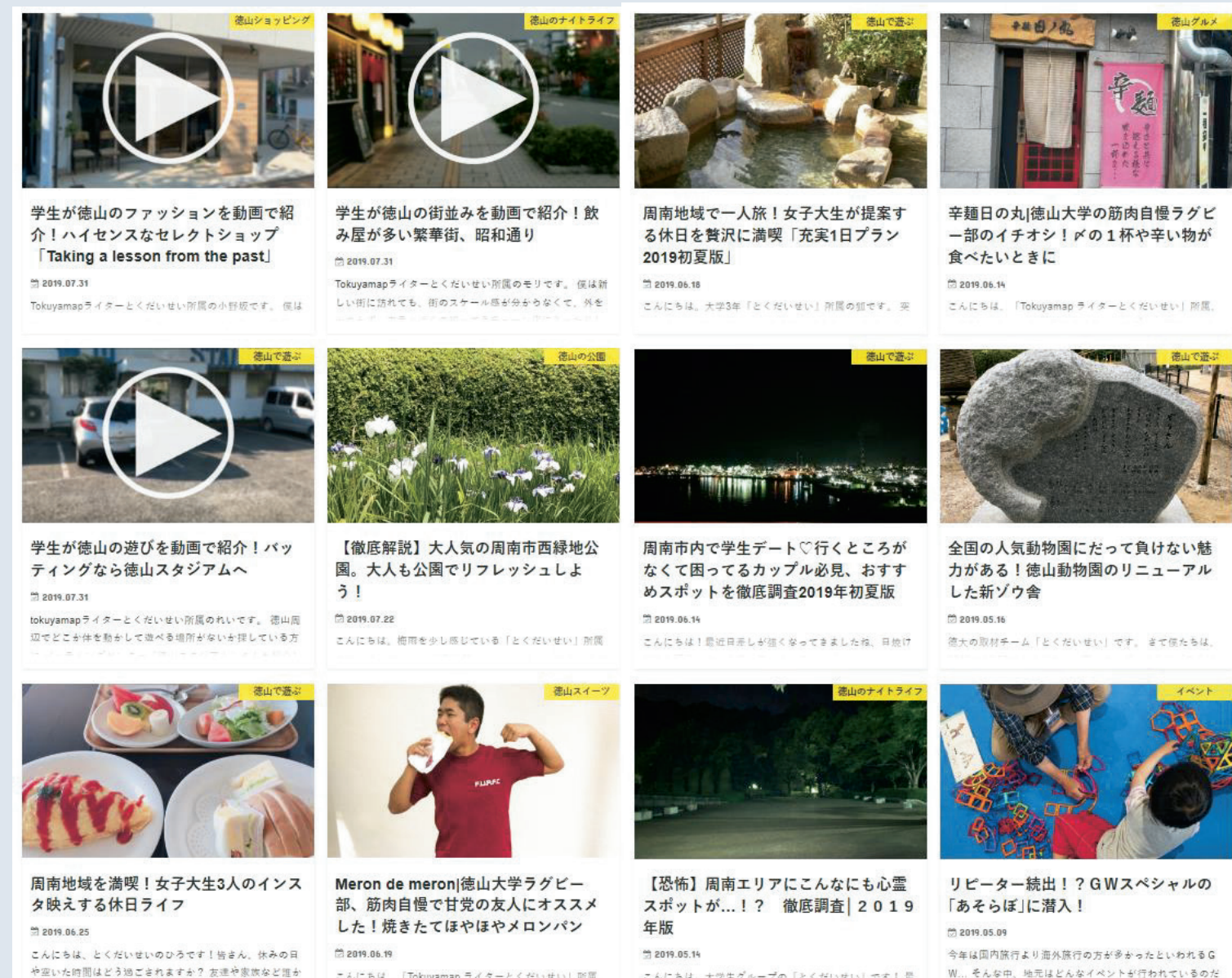
2019年度は専門ゼミ I (3年次) に以下の3つのテーマで開講

- 働きたくなるまちとは一徳山大学生の就職意識に関する考察—  
連携団体：徳山商工会議所 受講学生：4名 担当：呉 賛
- Webメディア (Tokuyamap) を活用した地域情報の発信  
連携企業：(株)まちあい徳山 受講学生：6名 担当：寺田篤史
- 遊びの情報発信基地に情報が集まる仕組みづくり  
連携企業：(株)国際貿易 受講学生：6名 担当：羽田 司

2020年度は専門ゼミ I および専門ゼミ II (4年次) に1ゼミ追加を決定した。今後のさらなる拡充を目指している

## 3. 実践事例 「Webメディア (Tokuyamap) を活用した地域情報の発信」

連携企業：(株)まちあい徳山

ゼミメンバー：中村 真理 守田 昇馬 大隅 絢夏 田中 寛恵  
小野坂 博文 中坪 令課題：地域情報発信サイト Tokuyamap のページビュー (PV)  
・ユニークユーザー (UU) 数の向上方法：Tokuyamap公認ライター「とくだいせい」として記事  
制作をしつつ解決策を提案

とくだいせい記事PV/UU

計測期間

2019年4月1日～2020年2月5日

Tokuyamap全体  
平均PV2485/UU1030

- ①心霊 15001 / 6777
- ②デートスポット 2531 / 1110
- ③辛麺 1521 / 690
- ④一人旅 1220 / 510
- ⑤昭和通り 915 / 396

心霊スポットの  
記事は特に好評

↑自ら取材し全13の記事と動画を作成

## 課題発見

学生の気づき

- 記事内には店舗位置等を示す地図はあるが、Tokuyamapという名称なのにサイト内の記事が周南地区のどの場所についての記事なのかわかるような視覚的な情報がない
- そもそもTokuyamapの知名度が低い

提案内容の決定

- ① 親しみやすい手書き風の地図コンテンツ作成
- ② 店舗に掲示するPOP類作成

これまで…「地域ゼミ」新設 (2014年度) ・必修化 (2017年度) を中心に  
学生が体系的にPBLで学習できる体制を整えてきた

1年次	2年次	3・4年次
教養ゼミ I	地域ゼミ	専門ゼミ I・II
ALへの導入 (PBLリテラシー)	地域課題による AL体験	専門知識を活用した PBL

この体系のさらなる充実化のため

「山口型PBL」を3・4年次の「専門ゼミ I・II」  
に導入を進める専門ゼミ I・II：卒業論文作成に向けて実施される3・4年次科目  
(経済学部：選択必修、福祉情報学部：必修)※徳山大学では、伝統的な卒業研究も学生が自身の関心に従って  
課題を発見し解決していく営みとして本来PBL的な学習形態としている山口型PBL：山口大学国際総合科学部の「プロジェクト型課題解決研究」を  
モデルとして、山口県が県内大学への普及を主導する、企業や  
自治体等からテーマと活動資金の提供を受け実施されるPBL

## 解決策① 地図コンテンツ作成

A案 既存の地図サービスGoogleマップを活用し、Tokuyamapで  
紹介されたスポットとその記事へのリンクを地図上に表示  
⇐ TokuyamapのMAPというコンセプトを活かしつつサイ  
トの利便性向上を図る

- 現在は無料のマイマップを API (有料) を用いて手書き  
利用して作成中 風地図を重ねる方法も検討

B案 「とくだいせい」作成の動画・記事名のリストとその記事内  
容を反映した親しみやすい手書き風地図を掲載  
⇐ 学生作成の記事のまとめページを作ることで、読者ター  
ゲットを明確にし、利便性向上・PV増加を意図

- 「とくだいせい」が記事にした  
注目スポットを総まとめし、記  
事と地図上のシンボルを対応さ  
せてわかりやすく表示する
- 手書き風地図は外注し納品にむ  
けて作成中



手書き風地図のイメージ (大隅作成)

## 解決策② POP類作成

TokuyamapのPOPを作成し取材先等に置いてもらう

⇐ 人目につくところに置くことで知名度向上を図る

- カード・チラシ・シールなどを想  
定、連携企業と内容を協議し印刷  
会社へ発注予定
- QRコードなどでTokuyamapへの  
リンクを載せる



POP図案のイメージ (大隅作成)

## 4. 今後の展望

- 今後も卒業研究としてプロジェクト型PBLの拡充に努める
- 他のゼミのプロジェクトも含めて、学生の力量・主体性の度合いやプロジェクト進行のスピード感など、企業と学生・教員の間の認識のギャップからくる学生の負担感の増加等の課題が明らかとなった
- 現在は「地域ゼミ」(2年次)用のコモンルーブリックを主に評価しているが、評価方法についてはより洗練させていく

